

会派代表質問

議員の仕事は、市民の安心・安全と生活向上の為に全力を尽くす事だ。



石渡 登志男 議員

ふるさと納税について、私は否定的な考え方をしている。そもそもふるさと納税は、自分が思い入れのあるまちを応援、貢献したいという趣旨から生まれてきたものである。要するに自治体間におけるお金の分捕り合戦。それこそ他の自治体から奪ってくる事がその自治体の収入を増やすことにつながるからだ。負け組自治体は税収が1千万単位で減ったところもある。個人も自治体も山本リンダさんの歌ではないが、もう「どうにもとまらない」。また寄付する側にとってみれば、とにかく美味しい自治体に「狙いうち」、もちろんふるさと納税負け組自治体には、びったりあてはまるリンダさんのこんなヒット曲もあった。「こまっちゃやうな」。こうなるとどんどん過熱する。それが「ふるさと感謝券」でもある。でも、こんな事に行政が一生懸命になり知恵を絞るぐらいなら、もっと違う事に知恵を絞ったほうがよい。いかによきサービスを提供できるか、そういうことと自治体は一生懸命になるべきだ。

関連質問



堀本 孝雄 議員

市民の健康づくり
① 市民の健康づくり
② 永田駅利便性
③ 水道料金値下げ
④ 道路整備



蛭田 公一郎 議員

体の統合はどうなっているのか。「統合」によって水道料金の値下げに繋がると考えているが良いか？
答 水道料金にどの程度反映されるかについては、その時点での施設更新に係る費用など、他のコストがどの程度増加しているかわかりませんが、現段階では何とも申し上げることは出来ないところであります。
問 水道事業体の統合が家庭用料金に引き下げに繋がるよう、市長には頑張ってもらいたい。
答 平成24年度から5か年の件数で2件、今年度1件の申請を受け付けて現在手続き中です。
問 もともと平成24年に200万円だった予算が150万円になり、更に100万円に削減となり、その予算も執行が少ない、これは、「私道整備助成要綱」の見直しが必要。市民が使い易いように見直しの検討をお願いしたい。
問 市道の整備について、地域等からの要望と改善状況如何？
答 平成26年度から平成28年度までの3か年の要望件数は48件、そのうち道路の状況を調査し、利用状況などを考慮した結果、事業化となりましたのは4件です。
問 鋭意、解決に努力していただきたい。
次に、市道について、予算要望の際に出した道路整備について、次の幾つかについて改めて要望しておきます。
○旧道「みずほ小入口」付近の狭い部分の解消
○旧大網小付近の旧道の縁石の撤去
○柿餅スーパーパーハヤシ前の水溜まりが出来る市道の整備
○上谷新田の白亀川に通ずる赤道の整備ほか。

注 内容は各議員からの原稿をそのまま掲載しています。掲載の順番は、一般質問の登壇順となっています。

成26年の9月議会でも話したが、その後どうなったのか、進捗状況を？
答 大網駅前広場の通路屋根の設置については事業の実施に向けて現在実施設計を行っており、山武土木事務所やJRなど、関係機関と協議を行っております。特に、駅舎との連続性を確保することについて、JRの関係部署との協議を重ねていくところでありますが、複数の部署との調整に時間を要しています。引き続きJRとの協議を進め、通路屋根の設計を完了させ、早期に整備着手ができるように努めてまいります。
問 次は駅前広場の受動喫煙についての対策。喫煙場所が1カ所に集約されたが、それはそれでよい。ただ、煙はかなり出る。喫煙者が直接吸い込む煙を主流煙というが、むしろ、たばこの先から出ている副流煙の方がより有害物質が出ている。JTも無償でアドバイスを行っている。煙が出る限り外に出ない箱構造でもよい。健康増進法という法律には、全面禁煙が困難である場合は、喫煙場所から非喫煙場所にはこの煙が出ない事はもちろんのこと、適切な受動喫煙防止措置を講ずるよう努める必要があると書いてある。そのへん、ちょっと考えてみたらどうか。
答 広場内の喫煙場所は市で指定している東金線通路付近の1カ所となつております。現在、通路屋根の設計を進めておりますが、この整備とあわせて喫煙されない方々に配慮した対策を検討してまいります。
問 白里地区の新路線バスについて、来年度の9月末で契約が切れる。白里地区の問題は本市の縮図。何もしないでいいところはない。大網白里市にはいたるところにある。これでは高齢者が病院や買い物に行くのに、非常に困った状態になる。平成

25年11月から28年10月までのデータであるが、利用平均は1便で南ルート1.3人で、北ルートは0.5人。ではどうしてこうなったのか？市民の思っている考え方で市側が思っている考え方がうまくリンクし、そう一致しなかった。バスの本数等にもそれが言える。ひとつの提案として、ハイエースクラスのワンボックスカーでよい。乗車人数を考えると、これでもよい。ある程度の道ならすんなり入っていきけるし、リースや購入でも、また燃費の面でも都合がよい。それを南・北ルートに何便も走らせ、ご利用の多い既存路線バス停の時刻につなげる。もちろん南・北ルートの運賃も考える必要がある。自治体が直接ある程度の財政的な負担をしながら、市が直接行っていない限り、こういう方々は全く救われない。今ある新規路線バスからコミュニティバスへの転換が必要だ。市民の意見を出来る限り、全て100%反映させることは不可能かもしれないが、でもそのポイントとなる部分だけについては、ひとつお願いしたいと思っている。これについては後の関連質問で堀本議員から対応していただくことになっているので、私はこの場では質問をしない。
問 子育て支援について、これは本市発展のカギを握る事でもある。私は一貫して、そのカギを握るのは、みどり丘と言ってきた。そういう中において、子育て支援、まちづくり事業の概要という形で市から説明資料をいただいた。ただ、子育て支援をしただけでは人口は増えない。だから私は、再三、みどり丘には商業施設の誘致が必要だということを見と、みどり丘に商業施設や産婦人科医院の誘致を図る、子育て支援施設を建設のほか、相互に機能連携を共有しながら、新たな賑わいの創出につなげていきたいと記されていた。まさに、そのとおり。これについても引き続き同会派の堀本議員から、さらに質問をすることになっている。

問 白里地区の新路線バスについて今後のあり方について
答 バス事業者からは現在の利用状況では、来年9月の契約更新時では現行と同条件での継続は難しいと言われている。しかし、今後の付近の住民の移動手段の確保は重要であり、現行の路線バスルートの改善やデマンド交通、福祉バスの利用等による新システムの導入等について、平成33年度までの計画期間内に対策をとりたい。
問 公共交通の利便性といえばとか採算性が問われるが、近隣市では当市の3倍以上の業務委託料を支払っている。地域間格差の是正、地域の活性化、交通弱者や買い物難民のために住民サービスを行っているという聞いています。代表質問の中で、石渡議員が提案した方法も検討してはどうか。
市長 高齢化の進む中で交通網の確保は非常に大切であると認識しています。バス事業者との契約期間が終了した後もしっかりと対策を検討していきたい。
問 人口減少対策が全国で一斉に動き始めています。本市も乗り遅れないように若者の移住、定住促進策、子育て支援策を積極的に打ち出す戦略の立案が重要ではないか。
答 少子化への対応、転入への促進を図っていく事が重要であるとの基で、平成27年にまち、ひと、しごと創生総合戦略を策定し、その中で4つの大項目を掲げ、駅前の整備、国道128号沿線の活性化、産科小児科の誘致、児童福祉施設の整備、地域包括システムの推進など取り組んでいます。今後これらの施策を積極的に推進し、人口減少の抑制、本市への移住、定住への促進に努めていきます。子育て支援についても、現在さまざまな支援を行っており、尚一層の充実に努めていきたい。

1 市民の健康づくり
問 5月16日から始まった「健康ポイント」制度、現在の「健康ポイント手帳」の交付状況如何？
答 現在1,500冊位。今後、更に周知に取り組みしていきます。
問 「健康ポイント制度」に取り組んでいる自治体では、一人あたり医療費が年間5万円近く削減されているという。是非、市民への参加のPRを強めていただきたい。
次に特定健診の受診状況、人間ドックの大網病院での受診率如何？
答 国民健康保険における特定健診の受診率は、全国平均が35.3%、本市は33.3%、ドック受診者数に対する大網病院の受診割合は23.8%です。
問 人間ドックは、4万円の助成もあるわけで、大網病院の受診率を高めることが必要。そのために、「1日当たり2人」とかの現状を、もっと増やすとか、サービスを改善するとかの経営努力をして欲しい。
2 永田駅の利便性向上
問 東口改札の設置、快速電車の停車を。
答 ご質問の「千葉県JR複線化等促進期成同盟」の「外房線対策部会」の会議が昨日、6月7日に開催され、永田駅の東口改札設置、快速電車の停車等について要望しているところであります。
問 永田駅に快速が止まれば、永田、南横川、四木、本納、新茂原、白子などから大網に集中している大網駅周辺の渋滞の解消にもなり、駅周辺整備費用削減にもなる。「ホームが短い」という問題は、当面はホームの無い部分のドアを開けないという対応もできる。引き続き粘り強くJRに要望していただきたい。
3 水道料金の値下げ
問 「平成24年までに実現をめざす」とされてきた千葉県の水道事業